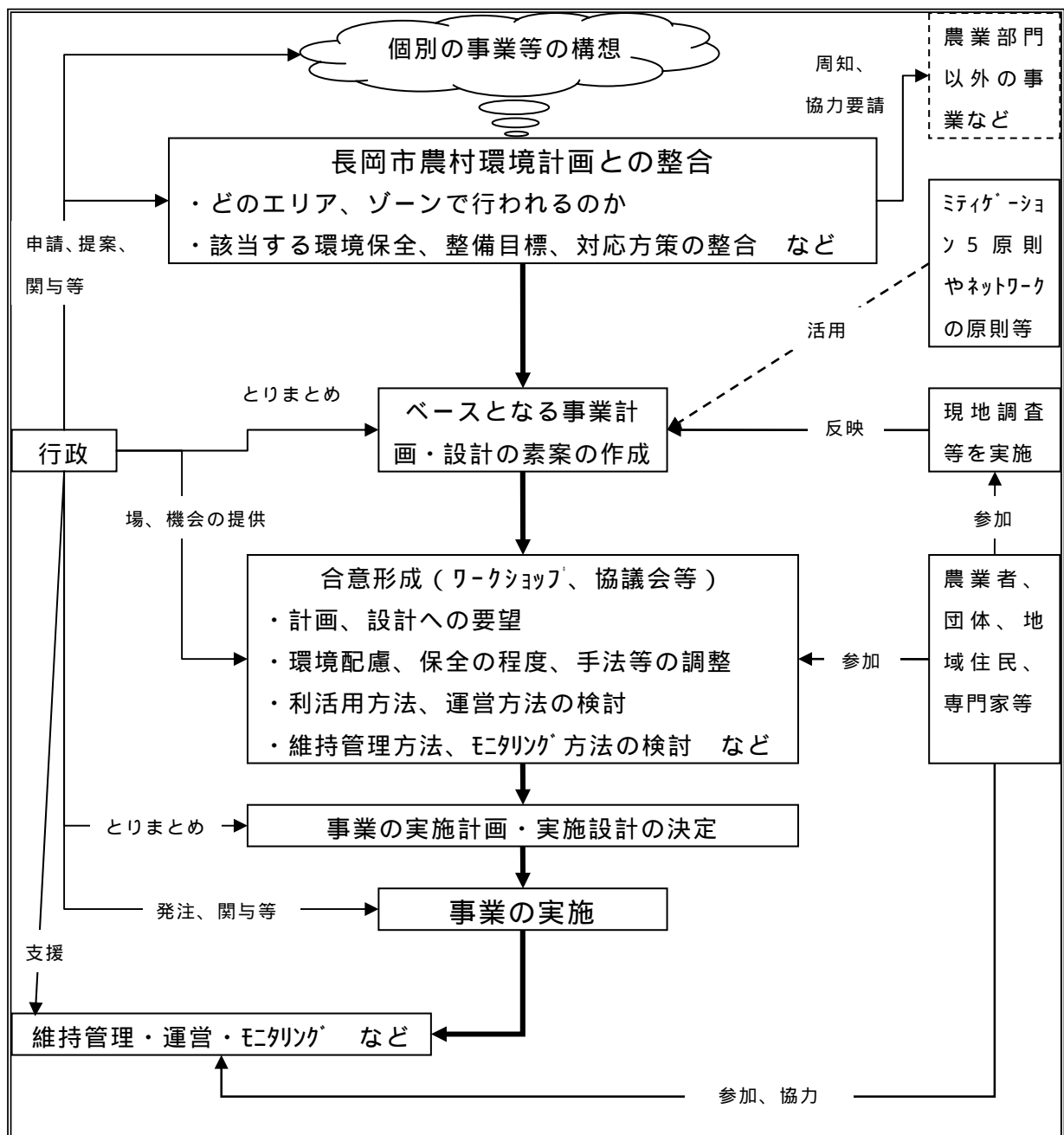


第7章 農村環境計画の推進

7.1 農村環境計画の枠組みと進め方

これからの農業農村整備事業等は、それらの基本的な内容が定まる前の段階において、本農村環境計画に照らし合わせ、必要な調査、検討を行った上でベースとなる素案、たたき台を作成することが重要になってくる。さらに農業者や地域住民等の様々な主体で合意形成を図り、実施に向けた計画や設計等を作り上げていく。



7.2 今後の展望と取組

(1) 今後の展望

農業

農業は農作物の生産はもとより、国土保全、水源涵養、景観形成等の多面的な機能を有しており、農の営みによって成立している風土、自然、文化・伝統等を将来に渡って保全・保存していくことが重要である。それには農業農村の持続的な発展が必要である。環境負荷の軽減を図り、生き物への配慮に取り組みながら、一方で農地の集積や集落営農などの効率的な生産活動も進めていかなければならない。



山古志地域

農村環境と生物多様性

平成 19 年に策定された農林水産省生物多様性戦略では、「我が国の生物多様性¹の保全のためには、農林水産業のあり方とその果たす役割が非常に大きい」とされている。

近年、農村においては過疎化、担い手の減少による営農活動の停滞、生活様式や産業構造の変化などで里地里山、それらを取り巻く山々が荒廃し、また近代的な農業整備により、身近に見られていたホタル、トンボ、メダカ等の生き物が減少している。その一方で、サルやイノシシ等の鳥獣被害も深刻になっており、農村生態系のバランスが崩れつつあることを示唆している。農業は食料生産以外に多様な生き物を育む活動でもあるという視点に立ち、環境保全型農業の推進、生き物の分布に配慮した整備、環境配慮・保全の意識向上や自然とのふれあいの場の創出などを今後も継続して推進することが望まれる。

本市は平成 20 年 12 月にトキの分散飼育地に指定された。トキ受け入れに向けた施設の整備が進められる一方で、農村環境はトキの生息空間としても重要であることから、将来的にトキが棲めるような環境づくりや、市民への環境教育も進めていく必要がある。

1.多様な生態系、多様な生物種、同種内における多様な遺伝子が存在しているということ。



本市南部に飛来したトキ

地球温暖化対策

地球の温暖化の進行により今世紀末には、平均気温の上昇、氷床の融解、積雪量の減少、降水形態の変化、平均海面水位の上昇といった変動が生じると予測されている。我が国では暖冬により降雪・積雪量が減少し、融雪水が早期に河川に流出すると考えられ、また集中豪雨によって洪水災害が頻発するとともに、激しい渇水も増える傾向になると予測される。一方では気温の上昇などが作物の生理・生育に影響を及ぼし、品質・収量が低下し栽培適地が移動すると考えられている。異常気象による既存耕地の生産力の低下は、世界の食料市場に大きな影響を与えることから、食料供給力を向上することがこれまで以上に重要になる。

農地、農業用水等の利用により発揮される多面的機能のうち、洪水防止、地下水涵養、土壌浸食防止、土砂崩壊防止、気候緩和などは温暖化対策についての関わりを既に持っているといえる。今後は、農地の適切な管理による土壌中の炭素貯留²(温室効果ガスの吸収)、燃料用作物の栽培などといった、さらに踏み込んだ地球温暖化対策への貢献が望まれる。

2.堆肥や稲わら等の有機物を土壌中に投入すると、それに含まれる炭素は微生物により分解され、一部は大気中に放出され、一部は長期間土壌中に貯留される。その差し引きが農地土壌による吸収・排出量となる。有機物の投入を増やすこと、耕起による土壌のかく乱を少なくすることが二酸化炭素の吸収・排出抑制に有効とされる(参考：農林水産省、農業農村整備における地球温暖化対応策のあり方)。



堆肥の散布(越路地域)

(2) 今後の取組

本計画の推進には、農業者等(農協、土地改良区等を含む)をはじめ、住民等(市民、学校、企業等を含む)と行政がそれぞれの立場や役割を生かしながら協力していくことが重要である。各主体がそれぞれの取組を踏まえて連携し、合意形成を図り、農村環境計画を推進し実現化していく。

